

出石  
城下町建  
伝  
版  
かわら

平成 21 年 2 月 10 日発行 編集／豊岡市教育委員会（文化振興課：Tel0796-23-1160、出石分室：Tel0796-21-9029）

参加者募集!!

## 吹屋伝建地区視察ツアー

出石まちなみ保存会の役員会で、下記のとおり岡山県高梁市吹屋伝建地区へ視察研修に行くことを企画しました。ほかの伝建地区を見学できる良い機会ですので、一般からも参加を募集します。「私もぜひ参加したい」という方は是非お申し込みください。お待ちしております！

吹屋伝建地区は、岡山県西部吉備高原上の山間地にあり、近世以降、銅山とベンガラで繁栄した鉱山町です。

赤褐色の石州瓦の屋根を持ち、赤いベンガラ壁や白漆喰壁の町家の並びが程よい変化をもたらす美しい景観が特色です。

昭和 52 年に重要伝建地区の指定を受けた“伝建地区の大先輩”であり、地元保存会も設立 30 周年を迎えました。現地ではその間の苦労話や成功の秘訣などを教えていただけるものと思います。

- |       |  |
|-------|--|
| ☆と き  | 平成 21 年 3 月 4 日(水)                             |
| ☆出発時間 | 午前 8 時(午後 8 時頃帰着予定)                            |
| ☆集合場所 | 出石総合支所横駐車場                                     |
| ☆参加費  | 500 円～1000 円(昼食別途個人負担)<br>※参加人数により調整します。(当日集金) |
| ☆対象者  | 出石伝建地区関係者ならどなたでも                               |
| ☆募集人員 | 26 人(新旧役員優先のうえ、先着順)                            |
| ☆申込期間 | 2 月 16 日(月)～2 月 23 日(月)                        |
| ☆申込み先 | 市教育委員会出石分室(Tel21-9029)                         |

祝・重伝建選定 1 周年記念講演会  
満員盛況！

昨年 12 月 4 日夜、文化庁林主任文化財調査官を講師に招いて「伝建制度を活かしたまちづくりについて」と題した講演会を開催したところ、会場を埋め尽くすほどの受講者が集まり、地組住民の意識の高さを伺わせました。

講演会では伝建制度創設の経緯や、講師が実際に修理設計をされてきた建物の修理前と修理後の外観比較や駐車場の空き地を隠すための工夫など、実践に基づいた貴重なお話を聞くことができました。



壊れそうな建物や現代的に改装された建物を復原する様子が映し出され、伝建効果が視覚的によくわかりました。



**伝** 建かわら版第15号でお伝えしましたとおり、昨年、文化庁月報という月刊誌の10月号、「伝建歳時記」のコーナーに出石まちなみ保存会の武田厚志会長が寄稿されました。

掲載文は紙面の関係上6割程度にまとめられているため、本誌により全文をご紹介します。出石城下町の歴史や出石の人々が大切に守り伝えてきた伝統と文化が温かく綴られています。どうかご覧ください。



## 「伝統と文化が息づく 但馬の小京都 出石」

出石まちなみ保存会 会長 武田 厚志

兵庫県北部に位置する<sup>いずし</sup>出石伝建地区は平成19年12月4日、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されることが官報に告示された。これにより、出石伝建地区は全国で80番目の重要伝建地区となった。この出石伝建地区の「地区種別」は「城下町」であり、「城下町」としては福岡県朝倉市秋月伝建地区、篠山市篠山伝建地区に続いて3番目の選定となった。

### 【城下町の形成】

このすみやま  
山名氏の居城此隅山城は1569年、織田信長の武将羽柴秀吉に攻められて落城し、織田方の軍勢が但馬から引き揚げたのちに残存勢力を結集して築城したのが同じ出石の有子山山頂の有子山城である。しかし1580年、秀吉の再度の但馬攻めで5月16日に落城した。

かつて「六分一殿」と呼ばれて、全国66カ国のうち11カ国の守護職を一族で占めた山名氏は滅亡していく。その後、秀吉の部将前野長康が城主となり、そのあと1595年に小出氏が龍野から出石に入部してきた。そして1604年、有子山上の城を廃してふもとに移ったと言われている。1613年頃には小出氏によって今の城下町の原形ができていたであろう（出石町史による）。

小出氏は相続人が死亡し、お家断絶となる。その後、松平氏から仙石氏となり、明治まで続いていく。1706年の仙石氏入封以来、藩財政は赤字が恒常的であ

った。その上、財政的に大きな負担となることが度々起こる。1811年の江戸の大火で中屋敷、上屋敷ともに焼けてしまった。1830年には下郷一揆が起きている。1835年にはいわゆる「仙石騒動」によって半分の3万石に減知されている。城下では洪水や火事も多発している。苦難の連続であった。出石藩の負債は出石藩収入総額のほぼ4年分に当たる額であった。

明治9年出石城下の3分の2が焼失するという出石城下成立後最大の火災が発生した。今の出石は伝建地区も含め、その後再建された町である。

ここで出石の祭りをご紹介します、「伝建出石」にふれさせていたきたいと思う。

### 【出石の初午】

はつうま  
出石の初午 高山 貞 著 「出石物語」より  
『初午、3月の初頃のことが多かった。』

出石の初午を、但馬の三大祭りの一つだ等というあわてもののジャーナリスト等がいるが、決してそんなチャチなお祭りではなかった。明治・大正中期頃までの、大神宮の暦を見ても、出石初午という日程がのっている位で、日本全国に知られた大祭であって、決して今出来上がりの急に作りあげられたようなお祭り行事ではなかったのである。

それでは何でこんな、大きなお祭りが出石に出来たのか。それには相当の理由がある。

第一の原因は、当日三日間は、一般庶民階級が自由に大手門を通過して城内を往来できたこと。今日で言えば、元旦に二重橋を通過して宮城内に殺到するようなもので、いつの時代でも、民衆の好奇心にかわりはない。

第二の原因は、その前後、七日も十日も時によっては半月間も領内での賭博が見逃されたことである。これは確かに大した魅力である。今日でも公然と賭博が許可される都市があるとすれば、立ち所に、大繁昌を来たすことは間違いあるまい。このことの為に、全国の親分達が、続々と入り込み、公然、街頭でさえも、<sup>えんげん</sup>袁彦<sup>どう</sup>を展開したものである。

当時、出石川は主要交通路になっていたもので、川舟によっていりこむ連中はあらかじめ酒肴の用意までととのえ、川筋を上って出石領へはいると、途端に一同歓声をあげて開帳に及んだ等と豊岡の古老が話していた。方々から景気よく乗りこんだ連中も事志と違<sup>ことざ</sup>いスッカラカンに負かされて帰りには裸体の上、<sup>ま</sup>莫座一枚を纏<sup>まと</sup>うて、山道をこそこそと落ちて行く姿も見うけられた。実に今日では想像もつかぬ、珍風景がいたる



所に出現したものである。

第三、全但唯一の大藩であり、かつては地方主要産業である養蚕の神授であると言う宣伝文句があった為である。買物旁々善男善女が遠く丹波、丹後からも、続々手に手に「正一位稻荷大明神」と書いた五色の紙旗を携えて参詣し、社前付近はこの小旗で埋めつくされるほどであった。

当時としては、年中の必需物資はことごとく出石に出なければ調達できないという情勢であり、集まって来た大衆の購買量は大したものであった。従って、出石の商家は一年の生活費をこの祭りの前後一ヶ月間にあげてしまうという豪勢さであった。

第四、この大祭をめざして、全国から集まって来る諸興業物と物売りである。これがまた大した人気を集めた。<sup>かるわざ</sup>軽業、曲芸、犬猿芝居、剣舞、見世物、覗き、からくり等々、あらゆる物がやって来て、とうてい大手前広場だけでは収容しきれず、八木町、田結庄町の角から大橋際にまで進出したものである。

以前は、今日ほど娯楽施設は普及せず、従って出石の初午と言え、三丹地方の民衆にとっては信仰と用達とをかねた一大リクリエーションの場であった。』

藩主なきあとの稻荷神社はその後、町人の手によって祭礼が行われ、大正年間の大修理、平成19年の大修理も町人の寄付によってなされ、今も初午祭が毎年のように、にぎわいをみせている。

## 【お城まつり】

1967年（昭和42）には出石町観光協会が発起人となって出石城の再建を呼びかけ、同年6月に「出石城復元委員会」（委員長 由良寛市）が結成された。委員は40名で観光協会、商工会、区長会、婦人会、青年団、議会などの代表によって組織され、委員会を中心に本格的な再建計画が進められた。11月に起工式を終え、翌年3月着工された出石城隅櫓<sup>すみやぐら</sup>の建設は総工費2300万円余りを投じて、同年11月に東西両隅櫓<sup>すみやぐら</sup>の完成を見た。この建設資金については、一部町費の充当はあったもののそのほとんどが町民や町出身者の浄財で賄われ、関係者の並々ならぬ努力と苦勞が想起される。この再建の目的は但馬唯一の城として、また天の橋立から城崎間の観光ルートの大きな見どころとして「観光出石」を売り出すと共に町民の憩いの場とするものであったが、まさしく築城以来260年にわたり、但馬一の雄藩5万8000石の本城として君臨した歴史の重厚さを偲ぶという新しいシンボルの創造にあったといえる。1968年（昭和43）11

月2日の落成式の協賛事業として披露された大人名行列（槍振り）は、以後隅櫓の完成を契機に始められたお城まつりの主要行事として毎年披露されている（出石町史より）。

このように町民の中には出石の文化、町並みを守っていこうという文化が存在した。昭和37年の観光協会の設立は全国的にみても早い段階で設立である。又この出石の観光協会の特質として、今までの歴代の協会長がすべて直接観光業に携わっていない方であり、協会員のメンバーも観光業以外の方も多い。このことが観光協会の社会的立場の認知に大いにプラスとなったと考える。

さて、本論に戻るが、昭和43年に始まった大人名行列（槍振り）は今年（平成20年）で38回となり、11月3日はお城まつり、大人名行列、槍振り、子供大人名行列がセットになって完全に定着している。

## 【永楽館】

平成20年8月1日から5日まで復元なった芝居小屋永楽館で「柿落<sup>こけらおとし</sup>大歌舞伎」が上演される。この永楽館の復元は昭和63年10月21日に設立された出石町民による「出石城下町を活かす会」など多くの住民がこの永楽館復活を望み、その長年の運動が実を結んだものである。合併前の出石町のときから取り組まれてきたが諸条件が整わず今日に至ったものである。

この永楽館は今回の伝建地区に接してはいるが、残念ながら伝建地区内ではない。しかし、大きく町並みという立場で見たとき、出石の景観形成に大きく一役を買ってくれている。中心部に入る道路に面しているので、外部から来られた人は一目見て、「あ、出石に来た。」と言っていただけの程の存在感があると思っている。

最後に、私は数えてみると約20箇所の伝建地区を訪れている。批判覚悟で申しますと、その素直な感想は、立派に復元されていても今現在の生活感が無い「伝建地区」が見受けられる。実に賑わいがあっても、あまりにも造られ過ぎていると感じることもある。私の思う出石の伝建地区、あるいは出石の町のあるべき姿は、適度に賑わいがあり、適度に生活感がある、そんなまちづくりができたなら・・・と思っている。

「文化庁月報」掲載文章は文化庁ホームページ  
文化財＞種類＞伝統的建造物群保存地区＞伝建地区  
を見守る人々～伝建歳時記 にてご覧になれます。



## 設計士会・建築登録業者合同研修会

# 「篠山伝建地区修理現場見学会」に参加しました

昨年12月14日、出石まちなみ設計士会と出石城下町まちなみ保存協力建築登録業者の合同で、篠山伝建地区修理現場見学会に参加しました。

篠山伝建地区鳳凰会館で兵庫県教育委員会文化財室村上室長の講演のあと、これまで伝建事業で修理・修景事業を行った建物について、それぞれ担当された設計士により1棟ずつ建物の特徴や修理（修景）の概要を説明されました。

一般住民の参加も多く、出石伝建地区においても、修理事業が進むにつれて開催したいと思います。



この伝統的建造物が火災にあいましたが、再興を願う住民の寄付で復元修理され、現在は観光客をもてなすカフェに。



このような説明札が付けられている伝統的建造物もあり、訪問者を楽しませてくれています。

郵便受けもまちなみに調和するデザインで景観維持に役買っています。



## 伝建審議会開催

### 特定物件追加、H21事業承認！

昨年11月27日、出石伝建地区保存審議会が開催されました。この会議で追加希望などのあった特定物件の異動が承認され、特定物件の建築物は238棟から240棟に増加しました。また、平成21年度に国県に補助金を申請する物件についても協議し、承認されました。

## みなさんにお願ひ

### 古い建物写真ありませんか？

教育委員会では、伝建事業の参考資料として伝建地区内の古い建物や町並みの写真を探しています。お持ちの方はお貸しいただきませんか？画像をコンピューターに取り込んで、お返しいたします。お持ちの方がありましたら、教育委員会にご持参くださるかお電話願います。

出石まちなみ保存会 理事 中 貝 清 司 さん（材木）から一言！

国の重要伝建地区に選定されてから1年になります。伝建制度への理解も深まって来たように思われます。材木区では、高齢化が進み、空家、空地が増え、淋しくなるばかりです。

現在、伝建制度を利用して、F家が修理、復原中です。手間がかかりなかなか進みません。2月の完成予定ですが、どのように復原されるか、楽しみにしています。完成後には、皆さんも一度ご覧ください。

文化庁  
“保存修理”  
ロゴマーク

修理現場から

文化力  
POWER OF CULTURE